天皇機關說排擊時局批判演說大會

一、日　時　昭和十年四月六日　自午後七時　至同十時四十分

二、會　場　福岡市因幡町　記念館

三、參加者　五〇〇名

四、大會內容

1、開會の辭　明倫會福岡支部理事　松本　儉次

天皇機關說排擊は今や國民の輿論として擡起つてゐる。然るに政府は之に對し何等の處分もなし得ない。此の儘にて進めは國は潰れる明倫會は之等反國體思想の撲滅に起上つたのだ

2、演說

○挨拶　明倫會總裁　陸軍大將　田中國重

我國の現狀は何れの方面より見ても國際危機に直面してゐる國民一致して外患を防ぐ可き時國內に在りては政治、經濟、

財團法人 協調會福岡出張所

國民生活、思想何れも暗憺たる狀態にある、帝國の根本を無視したる天皇機關說が現れ之を支持する者あるを憂ふ、此の機關說を打倒し吾が社會から撲滅する爲に遊說してゐる。軍人の立場としても美濃部一派の統帥權否認に到しては斷じて看過する事が出來ない。政府、貴族院に於て何等の處置も出來ない事は情ない。華族諸公の忠誠を疑ふ吾々は政府を鞭撻し貴族院を反省させる責任がある勇往邁進せよ

國體違反者を排擊す　明倫會理事陸軍中將　奥平俊蔵

天壤無窮萬古に類ひなき我日本に歐米思想の爲め國體を忘却してゐる者が多數ある。美濃部も其の一人である。敬神崇祖は卽ち忠孝であり、之が日本精神を旺盛ならしめる根本である。天皇は天照大神の御正統にして御再現であつて天皇と國家は不可分のものである天皇は百二十四代續られたと言ふ考

財團法人 協調會福岡出張所